

2015 年度 日本歴史学協会・日本学術会議史学委員会・同歴史教育分科会主催

歴史教育シンポジウム

イスラームをどう教えるか

日時：2015 年 10 月 17 日（土）13：30～17：30

場所：駒澤大学駒沢キャンパス 1号館 1—402 教場

開会挨拶：高埜利彦（日本学術会議会員 史学委員会）

趣旨説明：近藤一成（日本歴史学協会歴史教育特別委員会）

報告

店田廣文（早稲田大学）「日本におけるムスリム・コミュニティの現状と課題」

滞日イスラーム教徒（ムスリム）人口は、現在、11 万人前後に達している。国内各地に、イスラーム礼拝施設（モスク：別名マスジド）も開設され、その数は 83 カ所にものぼっている。日本に根付きつつあるムスリム・コミュニティによる社会的諸活動の現状を確認しつつ、ムスリム・コミュニティの存続と地域住民や日本社会との関係構築など、将来に関わる諸課題について考察する。

三浦 徹（お茶の水女子大学）「イスラーム世界はなにを語るか」

中東・イスラーム世界は「遠い異国」という思い込みがある。私たちの身近には、葡萄、トタン、襦袢、モンスーン、シロップ、バザールなど中東起源のものがあり、歴史を通じて接していた。高校・大学生のイスラーム認識の調査では、イスラーム世界への関心の高さとともに「異質」というイメージが強く、「共通性」の理解が必要とされる。大学での授業実践を踏まえ、中東・イスラームをグローバルな地域・歴史軸のなかに位置づける理解の糸口を示したい。

周藤新太郎（県立東葛飾高等学校）「高校生はイスラームの歴史をどのように学んだか」

世界史 B（4 単位）での「諸地域世界の交流と再編」におけるイスラームの授業を、いくつかの教育実践をもとに、5～6 時間かけておこなった。生徒にとってのイスラームは、昨今のニュースで断片的な知識と関心はもっているが、歴史的知識は皆無に等しい。報告では、生徒がイスラームをどのように受け止め、学んだのかを生徒が綴った記録を紹介し、イスラームをどのように教えたらいのか、今後の課題を考えてみたい。

総合討論

閉会挨拶：木村茂光（日本歴史学協会会長・日本学術会議連携会員）

連絡先：日本歴史学協会 info@nichireki-kyo.sakura.ne.jp

<http://www.nichirekikyo.sakura.ne.jp>

会場案内：http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/campus/c_komazawa2